

沖縄からオリンピックへ ―本土空手道の歴史、精神と行方―

空手は伝承によると中国禅宗の祖である菩提達磨により開発されたとあります。今日、空手として知られている徒手空拳の護身術、健康法と精神的な修行について、中国から世界への旅と歴史をなぞります。その歴史の旅路で大きな変化と変形をキーワードで描写すれば、以下の通りとなります。

中国から琉球へ（16世紀から19世紀）
現地の武術（手）との合併。直伝、一子相伝、大陸と琉球の間の活発な交流

秘伝から学校の体育に（20世紀初期）
簡素化、「危ない」技の排除、集団稽古

1920年代
本土での紹介、演武会

1930年代
大日本武徳会に受け入れるため：「大和化」軍国主義化、流派に分離、唐手術から空手道に、技と型の改名

第二次世界大戦後
スポーツ学的な基準で体系化、3-K練習（3 K：基本、型、組手）、試合、国際化：世界に普及、精神主義化：禅、武士道の「作られた伝統」を構造

現在
スポーツ化、オリンピック種目として東京2020年で紹介、競技中心のための新しい練習方法、MMA (= Mixed Martial Arts)からの影響、商売化、武道空手と競技空手に分裂、西洋では実践的な空手を追求（“Practical Karate”）：脱3-K練習：応用注視：投げ技、関節技などを再導入、沖縄のルーツを探る、型の分解を研究

本セミナーでは、それぞれの時期の代表的な人物や師範を紹介し、稽古の仕方と理想理念の変化にも触れていきます。また、世界に一番広く伝播された松濤館流空手道に焦点をおくこととします。

総合科学部公開セミナー

第12回：4月27日（金） 18：30～20：00

対象：一般・大学生・高校生 参加費無料

会場：総合科学部1号館南棟3階 第1会議室

事前申込が必要。駐車場の利用可。

詳細：総合科学部HP

<http://www.tokushima-u.ac.jp/ias/>

申込み・問い合わせ先：

徳島大学総合科学部事務課総務係

TEL：088-656-9779

E-mail：sksoumks@tokushima-u.ac.jp